

岩手県認知症高齢者グループホーム協会の取組み（今後の取組み）

現地調査に基づく 避難開始の指針策定



岩手県認知症高齢者グループホーム協会

避難ポイントの明確化

1. 「避難準備情報」段階での避難開始の徹底
2. 地域住民、消防団等から声を掛け合う体制づくり（情報確保とお互いの助け合い）
3. 避難場所の選定と避難経路の確認
4. 避難訓練の毎月の実施
5. 水害はどこでも起こり得るという意識を持つ



必携パンフを作り、啓発する

必携パンフレット作製

8. 30を忘れない!

いのち 「生命を守る三か条」

1. 無駄と思うなかれ「避難準備情報」

「避難準備情報」を「避難開始情報」に読み替えて、勇気をもって避難せよ。100%安全な立地条件はあり得ない。逃げる時間は大きいと思われがちだが、それが大切な命を守る事に繋がるという強い意識を持とう。



2. 安全安心に一日過ごせる居場所の確保

指定避難所が、認知症のお年寄りたちに配慮されている場所とは限りません。より安全安心に過ごせる福祉避難所等の居場所を確保しよう。



3. 一人の力よりおおいさまの心

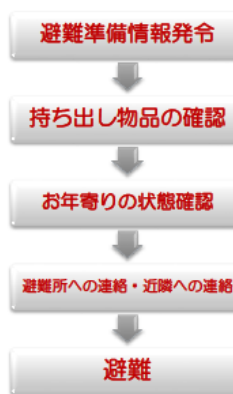
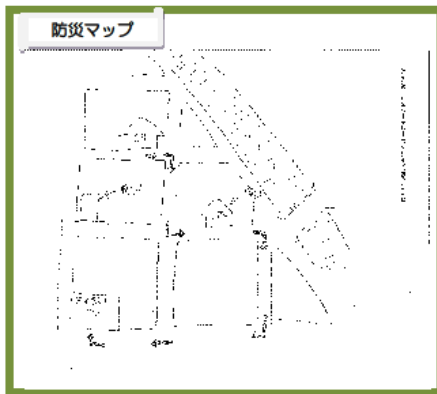
一人ではできることは限られています。お互いに声を掛け合い、地域の人と共に避難しよう。グループホームだけではなく地域の要配慮者と一緒に避難する体制を創ろう。



ホーム名: グループホーム いわて

避難場所名	総合福祉施設もりおか
連絡先	0123-45-6789
住所	
設備状況	トイレ洋式3つ(内1か所車いす対応) 簡易ベッド10台 デイサービス併設

連絡先一覧	
市役所	0123-00-0000
病院	0123-00-0000
消防署	0123-00-0000
民生委員	090-0000-0000
所長	090-0000-0000



物品リスト
<input type="checkbox"/> くすり
<input type="checkbox"/> 替替え (おむつ含む)
<input type="checkbox"/> 食料・水
<input type="checkbox"/> 連絡先一覧
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>

避難訓練確認表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
備品確認		×	発電機	水害	水害	火災	備蓄食料	津波訓練	夜間火災	×	×	地震

必携パンフの活用ポイント

1. 「避難開始の判断」「避難場所の選定」「人の助け合い」が生命を守る三か条となる。
2. 地域との助け合いが重要なことから、各GHの「運営推進会議」で議論し、作成すること。お互いさまの関係が災害に強い地域を創ることを認識する。
3. 必携パンフは、毎日目に触れる場所に提示し、常に意識する。
4. 変化があったら直ぐに改定し、古い情報のままにしない。

さいごに

防災意識を強化するもの

- GHの指導監査は、事業所の運営体制や火災訓練等の指導はあるものの、水害など災害の避難チェックはほとんど行われていない現状である。今後は、福祉担当課の行政指導を強化し、防災意識を高める力となっていただきたい。
- GH等のケア事業所の危機管理は、それぞれの事業所の責任ではあるが、身近な学校、消防団、警察官、民生委員などが一丸となった助け合いが重要である。地域が一つとなり、防災への方向性をまとめる指針の必要性を強く感じる。

岩手県認知症高齢者グループホーム協会の取組（今後の取組み）

～「防災必携パンフレット」作成経緯とそのポイント～

岩手県認知症高齢者グループホーム協会
会長 横山 久子

はじめに

8月30日の台風10号により岩泉町のグループホーム(GH)の利用者9名が犠牲になるという惨事がおきた。5年前の大震災では県内GHの利用者・職員共に一人も命を落とすことはなかった。

当協会では、翌日の8月31日、9月1日の2日間、物資支援を兼ねて、被害のあった5市町村(宮古、岩泉、久慈、田野畑、野田)の13ホームに対して現地での聞き取り調査を行った。各ホームからの聞き取りは大変学びが多く、今後の当協会の防災指針を構築する上で貴重な示唆となり得た。

その後、当協会の理事会、県担当課、協会会員などと協議を重ね、この悲劇を繰り返さないために、いつも皆の目に触れることで防災意識を高められるよう「8.30を忘れぬように一日も早く必携パンフレット(別紙2)を作成し、周知徹底する」こととなった。

1. 現地調査の結果

- ① どのホーム長も 避難するタイミングに迷いがあったという。9名の認知症のお年寄りを2名ないし3名の職員でどのように避難するかがほとんどシュミレーションできていない。そもそも認知症のお年寄りを別の場所に移動することに抵抗がある、という理由があり、豪雨で身の危険は感じているもののその葛藤があったという。
- ② 岩泉町では午前9時に全域に避難準備情報を出していた。だが「午後7時に停電となり、川のゴーッという音に異常さを感じ、高台の民家に避難した」というホームもあり、災害弱者に早めの避難を促す 避難準備情報が避難する判断材料になっていなかった 実態があった。
- ③ 13中6ホームは事前に避難し難を免れていた。地域住民、消防団員等がGHに来て「逃げろ」と声をかけられ、手助けしてもらいながら避難したホームが3カ所あった。
- ④ 指定避難所ではなく、認知症のお年寄りが安全安心に過ごせると想定していた避難場所に避難したホームが2カ所あった。
- ⑤ GHでの避難訓練は火災想定が多く、水害想定の訓練はほとんど行われていなかった。また、マニュアルも存在していたが想定外のことは対処できず、避難の判断を鈍らせる要因となっていた。

- ⑥ 河川からは離れており 水害とは無縁だと信じきっていたが、1メートルほど浸水したホームがあった。

2. 防災のポイント

- ① 「避難準備情報」段階での避難開始の徹底
- ② 地域住民、消防団員等から声をかけてもらう体制づくり(情報確保と人的確保態勢の確立)
その際、声をかけてもらうだけでなく、GH側も要配慮者を避難する際にピックアップするなど、両者が互いに恩恵を受けられるような関係性を作る。また、見えない一方的な情報だけでなく、見える化等の工夫により、質の高い情報を双方向でやり取りできるシステムも今後の課題である。
- ③ 避難場所の選定と避難経路の確認
避難場所は安心安全でできるだけ過ごし易いところをあらかじめ選定しておく。認知症を伴ったお年寄りであることを意識する。また、避難ルート、支援者宅、要配慮者宅、渋滞予想道路、浸水箇所等を常に意識できるようにマップに記載しておく。
- ④ 避難訓練の毎月の実施
一年間の避難訓練を計画し、実施状況を必ず記入することで形骸化させない。
- ⑤ 水害はどこでも起こり得るという意識を持つ
安全な場所などはない、と常に災害を想定することが大切。

3. 必携パンフ作製の際のポイント

「避難開始の判断」「避難場所の選定」「人の助け合い」が命を守る三か条となる。

実際に各GHで必携パンフを作成する際は、以下のことが大切である。

- ① 地域の方々との助け合いが重要なことから、各GHの「運営推進会議」で議論し、作成すること。お互いさまの関係が災害に強い地域を創ることを再認識する。
- ② 必携パンフは作成することに意義があるのではなく、毎日目に触れ、避難時は避難場所に持参できるような誰もが分かりやすい場所に掲示することで常に意識することが重要である。
- ③ 必携パンフは解説書も熟読し、何か変化があったら直ぐに改定して、古い情報のままにしない。

以上を常に念頭に置くことで、GH運営者、管理者、職員の災害のあらゆる場面で適切な判断につなげていただければと切に願う。

8. 30を忘れない!

いのち
「生命を守る三か条」

1. 無駄と思うなかれ「避難準備情報」

「避難準備情報」を「避難開始情報」に読み替えて、勇気をもって避難せよ。100%安全な立地条件はあり得ない。逃げる手間は大きいと思われがちだが、それが大切な命を守る事に繋がるという強い意識を持とう。



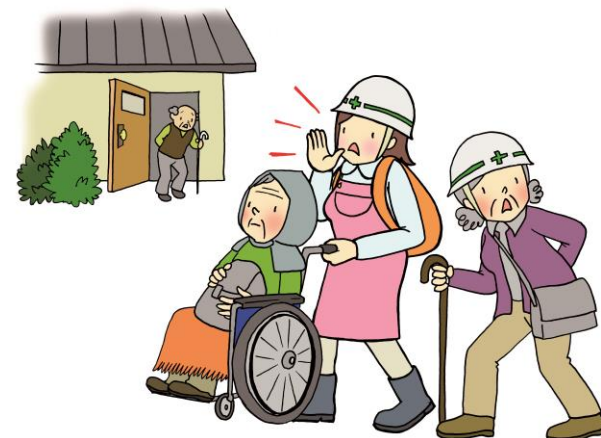
2. 安全安心に一日過ごせる居場所の確保

指定避難所が、認知症のお年寄りたちに配慮されている場所とは限りません。より安全安心に過ごせる福祉避難所等の居場所を確保しよう。



3. 一人の力よりお互いさまの心

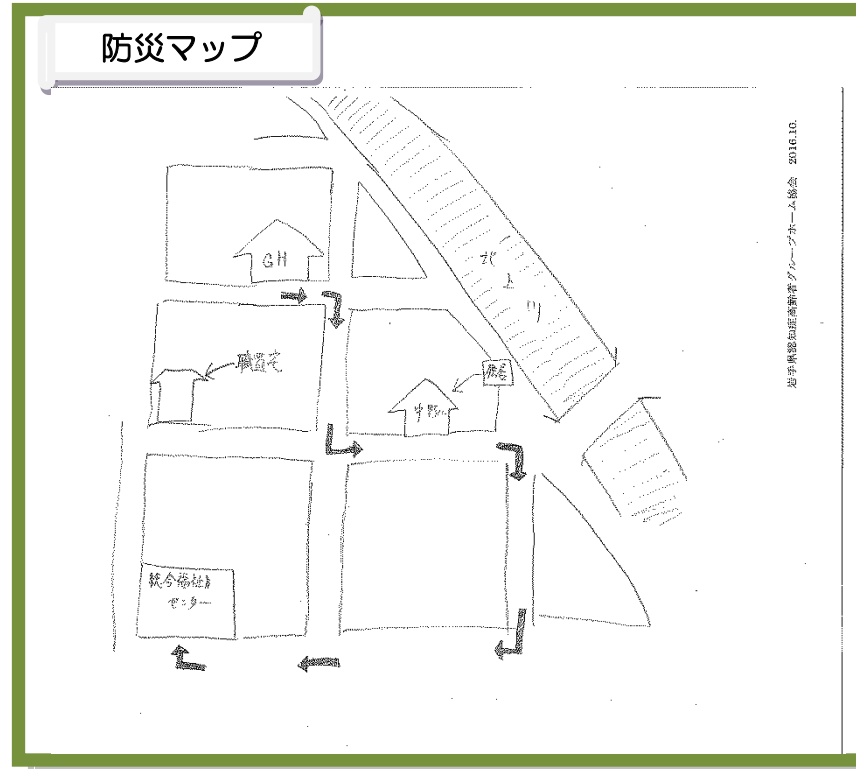
一人でできることは限られています。お互いに声を掛け合い、地域の人と共に避難しよう。グループホームだけではなく地域の要配慮者と一緒に避難する体制を創ろう。



ホーム名： グループホーム いわて

避難場所名	総合福祉施設もりおか
連絡先	0123-45-6789
住所	
設備状況	トイレ洋式3つ(内1か所車いす対応)
	簡易ベッド10台
	デイサービス併設

連絡先一覧	
市役所	0123-00-0000
病院	0123-00-0000
消防署	0123-00-0000
民生委員	090-0000-0000
所長	090-0000-0000



物品リスト
<input type="checkbox"/> くすり
<input type="checkbox"/> 着替え (おむつ含む)
<input type="checkbox"/> 食料・水
<input type="checkbox"/> 連絡先一覧
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>

避難訓練確認表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
備品確認		×	発電機	水害	水害	火災	備蓄食料	津波訓練	夜間火災	×	×	地震

必携パンフレットは、職員誰もが目の届く場所に掲示する。

(例：電話の近くや冷蔵庫等)

運営推進会議を活用し、地域と一緒に作成します。
地域と共に作成することで、より密接した連携が取れることに加え、地域資源の発掘や、地域を支えるためのヒントを見つけることができます。

避難準備情報を避難開始と捉えることで、いち早く安全な場所への避難を徹底します。
避難を面倒とせず、尊い命を守るために判断する勇気を持ち、避難準備情報発令と共に避難を開始しましょう。

市町村が指定している避難所が、認知症の高齢者に対応しているか確認する必要があります。トイレや手すりの有無、横になるスペースがあるか等、安全安心に過ごせる居場所の確保が必要になります。




避難訓練には、避難場所までの移動訓練も行い、定期的に避難場所の設備の確認も行いましょう。居心地についてもお年寄りから意見を聞いてみましょう。

今回の台風では、民生委員や消防団、地域住民の方々に避難を勧められ避難したホームが多く見られました。

有事の際には、グループホームが一方的に助けてもらう立場に立つのではなく、積極的に地域を助けることも常に考え行動し、地域に暮らす方々にも必要とされる関係性を築きましょう。お互いさまの関係性が災害に強い地域を創ることを認識しましょう。

8. 30を忘れない!
いのち
「生命を守る三か条」

- 1. 無駄と思わずなれ「避難準備情報」**
「避難準備情報」を「避難開始情報」に読み替えて、勇気をもって避難せよ。逃げる手間は大きいと思われがちだが、それが大切な命を守る事に繋がるといふ強い意識を持ちましょう。
- 2. 安全安心に一日過ごせる居場所の確保**
指定避難所が、認知症のお年寄りたちに配慮されている場所とは限りません。より安全安心に過ごせる福祉避難所等の居場所を確保しよう。
- 3. 一人の力よりお互いさまの心**
一人でできることは限られています。お互いに声を掛け合い、地域と共に避難しよう。グループホームだけではなく地域の要配慮者と一緒に避難する体制を創ろう。

避難場所の連絡先

避難の際に慌てぬよう、避難場所の名称、住所、連絡先を記載しておきます。また、その避難場所がどのような機能を持っているかを把握し、必要物品の準備や、長期の避難となった場合を想定する事も必要となります。

連絡先一覧

連絡先一覧を記載します。避難の際は持参し、各関係者への連絡に活用します。
ご利用者のご家族やホームの職員の連絡先も記載しておくとも良いでしょう。

防災マップ

防災マップは、ホームから避難場所までの経路を記入します。

大雨の際に水没する箇所や、渋滞個所の確認、近隣で支援を必要とする方の場所の確認、日頃頼りにしている方、近隣の職員の家等を記載し、避難の経路だけでなく様々な場面で活用できるマップを作成します。

作成の際には地域の方々からも意見をいただき、運営推進会議等で避難のシミュレーションも行います。

ホーム名： グループホーム いわた

避難場所名	総合福祉施設もりおか
連絡先	0123-45-6789
住所	トイレ洋式3つ(内1か所車いす対応)
設備状況	簡易ベッド10台 デイスービス併設

避難準備情報発令
↓
持ち出し物品の確認
↓
お年寄りの状態確認
↓
避難所への連絡・近隣への連絡
↓
避難

市役所	0123-00-0000
病院	0123-00-0000
消防署	0123-00-0000
民生委員	090-0000-0000
所長	090-0000-0000

防災マップ

<input type="checkbox"/> くすり
<input type="checkbox"/> 着替え(おむつ含む)
<input type="checkbox"/> 食料・水
<input type="checkbox"/> 連絡先一覧
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
×	発電機	水害	水害	火災	備蓄食料	津波訓練	夜間火災	×	×	地震	

避難までの流れ

避難準備情報発令から、避難までのフローチャートを記載しておきます。管理者が不在時や夜間に落ち着いて判断できるよう、利用者、家族、職員、経営者が全員で関わり作成し、共有します。

物品リスト

避難の際に持ち出す物品リストを記載します。
避難所の状況を加味し、あらかじめ準備する物や、持ち出す際に入れるものをそれぞれ記入しておきます。

また、すぐに運び出す工夫も必要となりますので、職員全員で作成します。

避難訓練確認表

一年間の防災活動を記載します。大掛かりな訓練だけではなく、勤務している職員だけでも出来る様な備蓄食料の点検や、避難場所の確認も行います。訓練を形骸化せずコツコツと毎月訓練を重ねることが大切です。

グループホームの立地により想定される災害の種類が異なることを認識し、自分たちのホームがどのような災害が身近に起こるのかを地域の方々と共に考え備えます。